

vol. 3 活躍する卒業生



岡山県内の大学・短大の魅力を紹介する「岡山の大学へ行こう！」3回シリーズの最後は県内大学・短大で学んだ後、社会に出て多彩な分野で働く卒業生が登場。印象に残っている大学での学びや、仕事のやりがいなどについて聞きました。また地元の大学へ進学することの経済的メリットを全国大学生協連の調査から紹介します。

川崎医療福祉大学・川崎医療短期大学

川崎医療福祉大学
医療技術学部 臨床栄養学科 (2019年卒業)

末藤 世奈さん

川崎医科大学附属病院 栄養部



長期の実習で 実践力を体得

管理栄養士を目指したきっかけは、祖父の在宅介護を手伝った経験です。祖父は体や言葉が不自由で十分なコミュニケーションは取れませんでした。食事をおいしいと喜ぶ姿に、食事は栄養を摂取するだけの行為ではないと気付かされました。「食べる」という人間の尊厳を守りたいと考え、川崎医療福祉大学臨床栄養学科に進学しました。

同大は最先端の高度医療を提供する川崎医科大学附属病院に隣接する恵まれた環境です。二つの附属病院や関連施設での臨床実習が

約半年間と充実。専門知識と実践力に加え「医療福祉」の理念を身に付けることができ、就職後も戸惑うことなく業務に臨めました。現在は消化器外科病棟で、栄養管理を担当しており、医師や看護師など多職種で編成するチーム医療・NST(栄養サポートチーム)にも加わっています。糖尿病

卒業論文発表会で説明する末藤さん



患者さんの「食べる」尊厳守りたい

食や嚥下調整食など約200種類に上る食事の中から一人一人の病状や嚥下の状態に合わせて、選択します。医学、医療の進歩に伴い、現場では高い専門性が求められる。例えば国民病ともいわれるがん。病態や治療に応じた適切な栄養管理を行うことで治療力のアップが期待できるとして、栄養療法に関する高度な知識と技術を持つ「がん病態栄養専門管理栄養士」があります。こうした資格にも挑み、より専門性を高めて患者さんのQOL(生活の質)向上に貢献したいです。



患者さんに栄養指導を行う末藤さん (左)

〒701-0193 倉敷市松島288

川崎学園
アドミッションセンター ☎(086)464-1064